2020年8月28日　定額タクシー 高齢者の足（愛媛新聞掲載）

定額タクシー 高齢者の足

松山・久枝地区取り組み

来春導入へ仕組みづくり

高齢者の移動手段を確保しようと、松山市の久枝地区まちづくり協議会とネッツトヨタ瀬戸内、タクシー会社などが、目的地の異なる住民同士で一緒にタクシーに乗車し、地区内の停留所で乗降できる仕組みづくりに取り組んでおり、27日に松山市でキックオフミーティングがあった。予約制で、定額の月会費だけで利用できる。来年１月に実証実験を始め、４月からの本格導入を目指す。

松山市久枝地区で計画されているタクシーを使った移動手段確保に向けたミーティング
＝27日午後、松山市問屋町

市によると、８月１日時点の久枝地区の人口は約２万人で高齢化率は約24.8％。協議会の説明では、地区の南北を路線バスが走っているが、自宅からバス停まで遠く地区内での買い物や通院に困る高齢者が多い。一般のタクシーは近距離移動のため呼びづらいとの声もあるという。

協議会などの案では、ネッツ社が住民からの予約の受け付け業務を担当。定員６人のワンボックスタイプの車両を使用し、実証実験では東洋タクシーが走行を担う。停留所は数百カ所設け、住民は希望する場所で乗降する。路線バスへの乗り継ぎもできる。

行政の補助金などは受けず、月額３千円程度と見込む会費と、地区内の事業者（スーパーなど）から集める月１万円程度の協賛金での運営を目指す。実証実験では200人を目標に会員を募集し、会費は未定。トヨタ・モビリティ基金の助成金を一部活用する。

キックオフミーティングでは、協議会の関係者や住民、地元事業者ら約40人が地域の移動手段の在り方を考えた。交通問題に詳しい愛媛大社会共創学部の松村暢彦教授は講演で、人口減少が進む中「これからの地域交通は住民がつくり、育て、守っていく時代」と話した。協議会は「若い人からお年寄りまでが住み続けられる活気あるまちにしたい」としている。（丸岡裕美）

2020年12月1日　乗合交通 実証実験へ（愛媛新聞掲載）

乗合交通 実証実験へ

松山・久枝地区 来年1月から

松山市地域公共交通会議が30日、市内であった。久枝地区まちづくり協議会などが同地区で予定している予約型乗合交通「チョイソコひさえだ」の運行計画（実証実験）について説明があり、委員から反対の意見はなかった。

乗合交通は、住民の移動手段の確保へ協議会とタクシー会社、ネッツトヨタ瀬戸内が計画。会費制の乗り放題で、行政の補助金などは受けず、利用者の月額3千円程度の会費と協賛企業の月会費により運営するとしている。来年1月から無料で、4月からは有料で実証実験を始める。

会議事務局によると、現時点で議決を伴う協議事項には該当しないが、道路運送法に基づく四国運輸局への実証実験の許可申請時に市の要請書を添えるほか、将来的には同会議の了承が必要な一般乗合旅客自動車運送事業の許可の取得も目指していることから、委員に周知した。

事務局は「既存バス路線への接続や利便性向上の面で、公共交通を補完し得るものと考えている」と説明し、委員からは乗降場所や会員条件などの質問があった。

ネッツトヨタ瀬戸内の担当者は協賛企業について「病院系と買い物をする店舗のほか、建設業など一般の来客が少ない業態の企業も入っている。自分たちも『市民』との認識で協力してくれている」と話した。

（丸岡裕美）

松山市久枝地区での予約型乗合交通の運行計画（実証実験）について説明があった市地域公共交通会議＝30日午後、松山市

2020年12月25日　停留所予定地に看板（愛媛新聞掲載）

松山・久枝地区の乗合交通実験

停留所予定地に看板

地元児童が絵 住民が設置

定額制乗り放題の乗合交通の実証実験を前に、停留所予定地に看板を設置する住民―24日午後、松山市東長戸３丁目

松山市の久枝地区まちづくり協議会などが定額制乗り放題の乗合交通「チョイソコひさえだ」の実証実験を来年1月に始めるのを前に、住民らが停留所予定地に看板を設置するなどして準備を進めている。

「チョイソコ」は住民の移動手段確保に向け、協議会とタクシー会社、ネッツトヨタ瀬戸内が計画。行政の補助金を受けず、住民主体で取り組むモデルとして注目されている。運営は利用者の月額3千円程度の会費と、協力事業者の月会費1万円程度で行う方針。実証実験は来年1月13日から無料で、4月から有料で始める。

停留所は地区内のごみ置き場やスーパー、病院、公民館など計300～400カ所程度を設ける予定。停留所の看板には、久枝小学校とみどり小の児童が絵を描いており、子どもと高齢者が手をつないだり、笑顔で乗り物に乗ったりしている姿を生き生きと表現している。

24日は同市東長戸3丁目の停留所予定地で、協議会の役員ら4人が目を細めながら絵を取り付けた。協議会の佐賀山誠事務局長(70)は「子どもたちに一生懸命描いてもらった看板を見て乗合交通を知り、利用しようと思ってもらえればありがたい」と話していた。

（丸岡裕美）